

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:98.

創傷管理に関わる立場から

日野岡 蘭子

特別企画パネルディスカッション 創傷管理に関わる立場から

旭川医科大学病院 看護部 日野岡蘭子

当院は地域の中核を担う大学病院で、血管外科病棟では遠方からの入院患者が多いことが特徴の一つである。時に入院時に重症化した潰瘍を保持している。しかし入院当初の患者自身の認識は必ずしも高くないと感じることが多い。どの時点でどのような患者教育が有効か、課題は山積している。患者に求められるのは自己管理に至る行動変容である。短期入院が主要の当院でできる事は限られており、キーワードは情報共有である。患者は従来通院している施設で糖尿病の管理と透析を行い、血行再建後にまた戻っていく。医師間では施設を超えてのカンファレンスがあるが、看護では施設を超えての情報共有が課題である。看護添書は施設によって形式が異なり、問題の焦点化がされにくい。自己管理は、局所のみではなく認識、理解、得られる支援の種類など、あらゆることにつながるため、情報のある程度集約することが必要と考える。遠隔システムの利用など方法はいくつかあるが、まずは情報共有のためにできることを考えていきたい。一例は足に関する共通事項を評価する簡易的なツールの利用である。今回は客観的な足の状態と患者自身の自己管理に関する意識や理解力の2点を焦点とした評価ツールを提案したい。施設間、在宅医療との共有で評価を検討したいと考える。